

## 令和7年度第1回 感染症発生動向調査協議会

令和7年4月16日

月番：馬場 尚志

### 1 前月の感染症発生動向について（2025年第10週～13週・3月）

#### <全数把握対象疾患>

- 結核は毎週報告あり。本年累計の対前年比は129.3%（結核発症128.9%、潜在性結核感染症130.0%）。発症者19例中11例が80歳以上。
- E型肝炎が2例報告あり（本年累計の対前年比400%）。
- レジオネラ症は4例報告あり（本年累計の対前年比300%）。
- カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症は2例報告あり（本年累計の対前年比300%）。
- 劇症型溶血性レンサ球菌感染症は5例報告あり（本年累計の対前年比142.9%）。
- 侵襲性肺炎球菌感染症は2例報告あり（本年累計の対前年比150%）。30歳代、50歳代が1例ずつであった。
- 梅毒は11例報告あり（本年累計の対前年比172.4%）。うち10例が早期顕症（本年累計の対前年比144%）で、男性7例（10歳代1例、20歳代2例、30歳代1例、40歳代1例、50歳代2例）、女性3例ですべて20歳代であった。
- 百日咳は31例報告あり（前年はこの時期までの報告例無し、対前々年比620%）。うち10～14歳が21例（ワクチン接種歴4回：13例、1回：1例、不明：7例）、15～19歳が6例（ワクチン接種歴4回：2例、不明：4例）であった。
- 麻疹、水痘（入院例）、後天性免疫不全症候群（無症候性キャリア、40歳代女性）、腸管出血性大腸菌感染症が、それぞれ1例報告あり。

#### <定点把握対象疾患>

- 新型コロナウイルス感染症は、前月比65.5%、対前年同期比50.5%で、第13週の定点あたり報告数は3.5であった（5圏域とも、ほぼ同じ値）。
- インフルエンザは、定点あたり報告数1未満で推移した（前月比37.7%、対前年同期比6.9%）。
- RSウイルス感染症は、定点あたり報告数1.5前後で推移した（前月比95.5%、対前年同期比363.6%）。
- 感染性胃腸炎は、定点あたり報告数が第10週の7.7から第13週の5.3まで減少したが、前月比126.2%、対前年同期比184.2%であった。

### 2 検討すべき課題

- 本邦における麻疹の発生動向および今後について
- 急性呼吸器感染症（ARI）の報告状況および課題について

#### <保健環境研究所から>

- アウトドアシーズンに向けたダニ媒介性感染症の予防啓発について  
ぎふ感染症かわら版の発行を検討しています。

### 3 情報提供すべき事項

- ・ 臨床診断の時点で届けるべき感染症（麻疹、風疹を含む）について
- ・ 国立健康危機管理研究機構 感染症情報提供サイト（国立感染症研究所 感染症疫学センターから移行）

### 4 情報提供（月番委員専門分野から）

- ・ エムボックス診療の手引き 第3.0版 (<https://www.mhlw.go.jp/content/001463222.pdf>)
- ・ 「6歳から64歳までのハイリスク者に対する肺炎球菌ワクチン接種の考え方」第3版 ([https://www.kansensho.or.jp/uploads/files/guidelines/64haienlinenashi\\_250409.pdf](https://www.kansensho.or.jp/uploads/files/guidelines/64haienlinenashi_250409.pdf))

---

### <検討結果>